# 百花撩乱

# 先物出版大賑わい

## 年史、小説、啓蒙、学術書……

先物業界で新刊書の出版が相次いでいる。佐藤陽紀著『古くて新しいお金の殖やし方』（本誌前号で紹介）に続いて柳沢逸司著『堂島のDNAを取り戻せ』や島実蔵著『泥棒猫めッ』、『東京穀物商品取引所五十年史』、『カネツ商事創立50年史話』等々。為田俊明氏の大作『商品取引所半世紀の歩み』（仮題）の出版も近い。

### 資料価値高い戦前の米穀取

東穀取はこれまで10年刻みで年史を刊行してきたが、今回の50年史は「本編」と「資料編　CD―ROM版」「東京米穀取引所」の3部構成。東穀取の年史は、古書街でも高い評価を得ているが、今度の50年史はこれまでにもまして高値を呼びそうである。それは戦前の米穀取引所編が貴重な資料となるからだ。初代頭取川上和八郎から最後の理事長早川芳太郎に至る22人のリーダーたちの肖像写真が壮観である。

全国米穀取引所の分布地図、米価、取引高の変遷、手数料の推移や株価の変動の跡も鮮かだ。

カネツ商事の『先物取引に生きる――カネツ商事創立50周年史話』はA4判で340ページ。

カネツ商事では創立20周年に『激流に生きる』、35周年に『カネツ商事35年史』を編纂しており、これで3冊目。創業者で現相談役の清水正紀氏の奮闘録の趣を成している。珍しい写真を多数配し、読み物仕立てになっている。

これまで当先物協会メンバーでは、小林洋行、岡地、岡藤商事などが50年史を出しており、フジトミも近くまとめ上げる計画という。今後、創立50周年を迎える当協会員は多く、年史づくりは盛んになりそうだ。

東京穀物市況調査会理事長の柳沢逸司氏による『堂島のDNAを取り戻せ』（財界研究所、1,500円）が話題を呼んでいる。著者は「ぜひ若い世代の皆さんにも、世界の人々に負けないように、先物の技術や使い方を習得してもらいたい」と若者たちに熱いメッセージを送る。

島実蔵氏の小説先物シリーズ第二弾『小説・登校拒否　泥棒猫めッ』（飛鳥書房、1,000円）は登校拒否に直面した家庭崩壊を縦糸に、高校生アキラが先物取引を手さぐりで理解していく姿を横糸に物語は進んでいく。読者は知らず知らず島実蔵の世界にひき込まれ、先物取引の仕組みや妙味を知ることになる。

全商連から出版の『商品取引所法改正経過要覧』第2集は1,400ページに及ぶ大著である。本書では第14次改正以降の経緯が収めてある。執筆は第1集に続き元全商連常務理事の上遠野次男氏。

次期商取法改正の行方が注目されているおり、早稲田大学教授で産業構造審議会商品取引所分科会の委員でもある尾崎安央氏は「本書の516ページをじっくり読んでほしい」と呼びかけている。そこには平成10年の商取審答申が収められており、その延長線上に次期法改正の骨子が浮かび上がってくると、強調する。

渡辺勝方・陳晃熙氏の『個人投資家のための穀物取引入門』（パンローリング、2,800円）はコーン、大豆でどうやって儲けるかを60問60答でやさしく解説してある。

### 為田氏の大作、秋にも出版

元関門商品取引所常務理事の為田俊明氏による『商品取引所半世紀の歩み』はB5判、2段組み、440ページに及ぶ大作である。戦後の商品先物史は「だれかがやらなければいけない」といわれながら、尻込みする人ばかりだったが、為田氏はコツコツと資料集め、執筆に取り組み、業界の識者にも執筆を依頼するなど難事業に精力を集中してきた。ようやく完成に至り、いまは出版元探しに知恵を絞っている段階という。秋にも商取半世紀の全容が世に出る。

## ◆◇新社長◇◆

### 丸市商店

**城ノ戸大吉郎氏が昇格**

丸市商店はこのほど城ノ戸英雄社長が会長に就任、城ノ戸大吉郎専務が社長に昇格したことを発表した。

**城ノ戸　大吉郎（きのとだいきちろう）** 58年東京食品（現東食）入社、69年丸市商店取締役（非常勤）、84年、丸市商店常勤取締役、99年代表取締役専務。67歳。

### 50周年記念式典開く

**10月1日、福岡商取**

福岡商品取引所は10月1日、開所50周年を迎えるため、当日、ホテルニューオータニ博多で記念式典と祝賀パーティーを開催する。

同取引所は昭和28年10月1日、19番目の商品取引所、関門穀物商品取引所として発足。昭和29年1月26日、砂糖の上場とともに、名称を関門商品取引所と改め、平成13年、福岡への移転に伴い名称を福岡商品取引所と改め、現在に至っている。

## ゴム立会場のぞいて勉強

### 夏休み親子金融体験バスツアー

ゴムの立ち会いを見つめる

「お金とか株、商品先物取引が行われている現場を見てみよう」と、東京証券取引所が企画した『夏休み親子金融体験バスツアー』の一行36人（小学生、中学生が各9人に、母親中心の保護者が各1人）が7月31日午後3時すぎ、東京工業品取引所を訪れた。

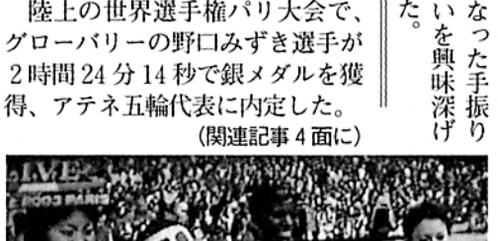
午前9時から、トウキョウフォレックス上田ハーロー（為替の取引）、日本銀行本店と貨幣博物館、東証（マーケットセンター）、野村証券（ディーリングルーム）、そして東工取見学というスケジュール。

日本の金融の中心を回ってきたわけで、やや疲れた様子もみえたが、東工取ではトレーディングルームで先物の説明を受け、コンピューター取引全盛の今では極めて珍しくなった手振りのゴム立ち会いを興味深げに見つめていた。

## 野口選手が銀メダル

陸上の世界選手権パリ大会で、グローバリーの野口みずき選手が2時間24分14秒で銀メダルを獲得、アテネ五輪代表に内定した。

（関連記事4面に）



笑顔の1～4位、左から2番目野口選手、TBS中継画面から